

コニカミルタ株式会社

2015 年（平成27 年）3 月期

第3 四半期決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2015 年1 月30 日（金） 17:30-18:30

場 所： JP タワー ホール&カンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください

【全社に関する Q&A】

Q. 通期業績予想に関して、当期利益を増額修正していますが、理由に挙げられている「資産売却」と「資産効率化」について具体的な内容を教えてください。

A. 当社は、中期経営計画の施策である「資産効率化」に沿って、国内拠点の集約を進めております。固定資産の売却益はその一環として、一部の拠点や社員寮を売却したことによるものです。政策的に保有している株式も一部売却を見込んでおります。

今回の当期純利益の修正については、期初に予定していた減損・構造改革費用の見直しも含めて複合的な要素を総合的に判断しました。

Q: 通期業績予想において、フリーキャッシュフローを10 億から300 億円に見直していますが、その要因について教えてください。

A: 中期経営計画では、3 年間で予定している戦略的投融資の約半分を14 年度に集中して投資する計画でしたが、3Q 終了時点での M&A の進捗状況を踏まえて、今期のフリーキャッシュフローの見直しが必要と判断しました。但し、M&A の案件数は十分にあり、中期的な戦略的投融資の考え方に変更はありません。

【情報機器事業に関する Q&A】

Q: グローバルなマクロ環境が厳しい中で、プロダクションプリントが米国を中心に好調を継続していますが、Q3 で好調だった背景と4Q 以降の見通しについて教えてください。

A: プロダクションプリントの売上が増えた要因は、昨年本格参入した中高速領域の新製品が市場で受け入れられ、従来の低速領域の製品からハードの売上が非連続的に増えているからです。新製品効果はプリントボリュームの増加、ノンハード売上の増加にも寄与しています。

商業印刷全体の市況は厳しいですが、印刷におけるデジタル化の比率はまだ 10%に過ぎません。ようやく、ランニングコストや画質などにおいて、デジタル印刷機が評価されるようになってきましたので、今後も印刷におけるデジタル化率は上がってくると考えています。

Q: 足元の国内の販売が厳しい背景、及び直近の欧州の販売状況について教えてください。

A: 国内については業界全体が厳しいと感じています。企業におけるプリントボリュームの回復が見られず、新たな提案力が必要だと考えています。

一方、欧州については、市況が厳しい中、当社は前年比で売上を伸ばしました。伸長率は1Q 3.2%、2Q 3.8%、3Q は 4.2%でした。昨年の伸び率が高く出ているのは一昨年に実施した M&A の影響によるもので、その要素を除くと昨年の3Qの伸長率は約3%となりますので、3Qの市場全体の数字はまだ出ていないものの、当社の伸長率は市場の成長を上回ると見えています。

Q: 好調な A3 カラーの新興国向けモデルの収益性について教えてください。

A: カラーの高セグメントの機種種の収益性には及びませんが、当製品で置き換えを狙う A4 機やモノクロ機と比較すると高い収益性を実現しています。今後も販売台数の増加が期待できる状況ですので、確実に利益増に貢献すると考えています。

【産業用材料・機器事業に関する Q&A】

Q: 液晶パネルの市場は来年度、面積では今期から 8%拡大するという予測が出ていますが、御社の見方を教えてください。

A: TVでの40インチ以上の大画面化の進行は当社にとっては追い風になります。また中期経営計画でも申し上げているように、TACフィルムで培ったコアな技術力を生かして、機能材料分野における既存事業からの「染み出し領域」を探しながら成長を図っていきます。

以上